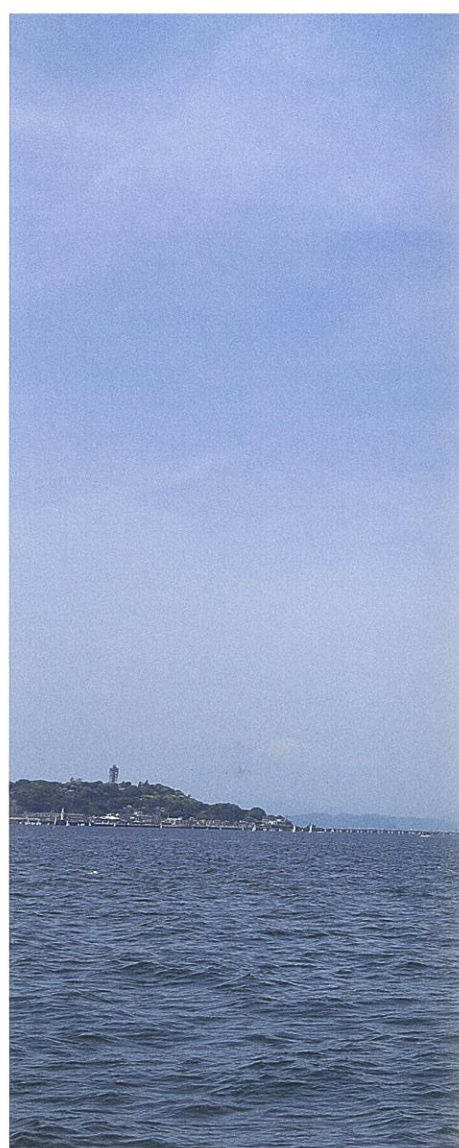


船齢53年の木造ヨット
〈やまゆり〉を保管・維持して
体験乗船会を開催する人々の心意気

53 years old wooden yacht 'Yamayuri'
東京オリンピックが残した
宝物

文=今井常夫 写真=山岸重彦
Text by Taneo Imai, Shigehiko Yamagishi

プラスでレリーフされた船名。
50年を超える伝統を感じさ
せる風格にあふれている



1964年(昭和39)、東京オリンピックのセーリング競技が、神奈川県江ノ島で開催された。

それまでは小さな漁港だった江ノ島に、世界中からヨットが集結し、以来、相模湾は日本のヨット競技の聖地、マリレジャーの中心地として栄えるようになった。

このセーリング競技開催にあたって、海上警備と洋上でのVIP接遇のために、神奈川県が43フィートの木造ヨットを建造していた。それが今回紹介する〈やまゆり〉だ。

東京オリンピックの2年前、岡本造船で建造され1962年3月に進水。設計は、当時、岡本造船に勤務していた

横山晃氏が担当。堀江謙一氏の太平洋横断艇〈マーメイド〉を手がけた、日本のヨットデザイナーのレジェンドだ。副設計者に日本の外洋レーサーの草分けである武市俊氏も名を連ねるなど、まさに歴史に名を残すべき艇である。

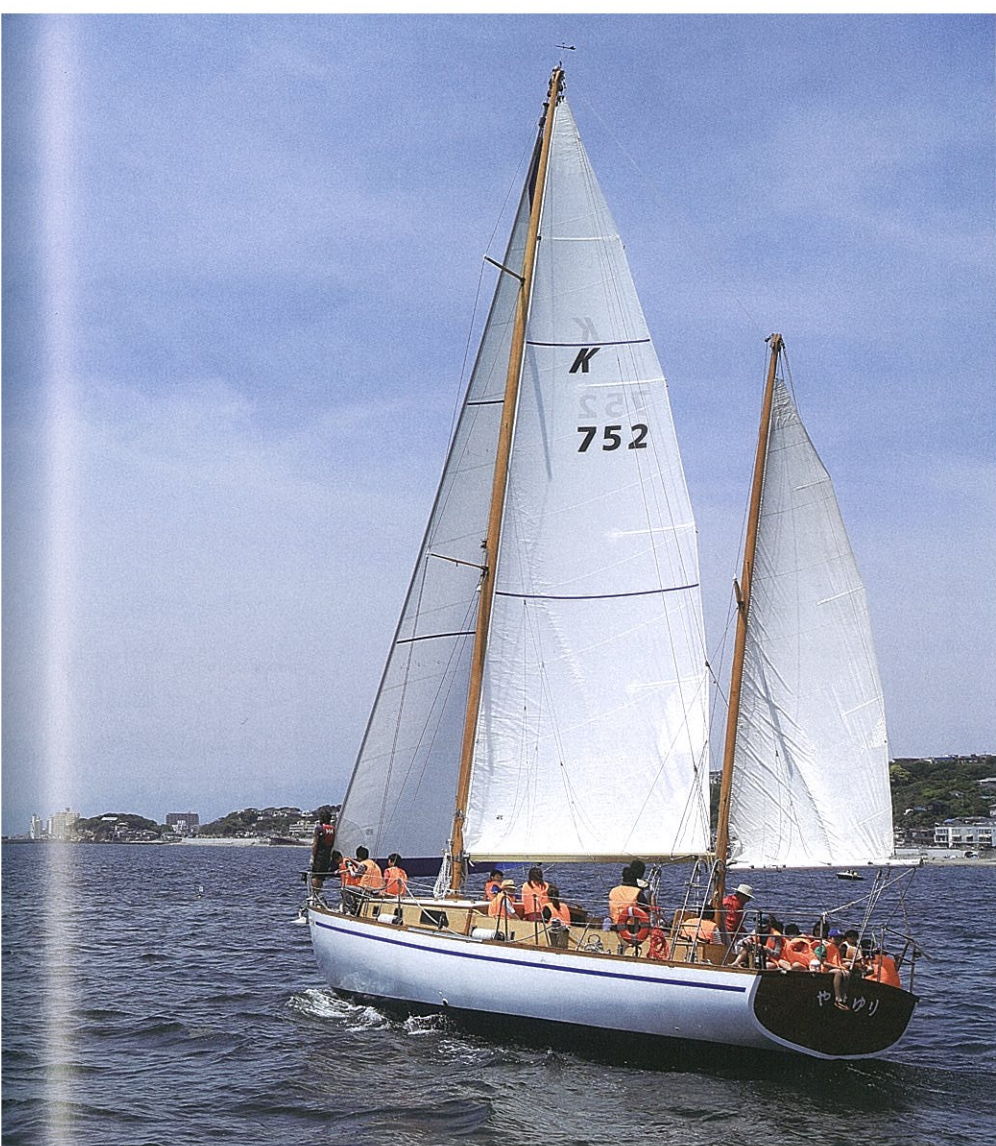
オリンピックの2年前といえば、4月に第1回サウスチャイナシー・ヨットレースが香港からマニラにかけて開催され、石原慎太郎氏の〈コンテッサII〉35ftが出場。同年5月には堀江謙一氏が日本人初の太平洋横断に成功している。また神田壱雄・真佐子夫妻が、ヨットによる初の日本一周航海を開始したのも、翌1963年11月からだ。オリンピック開催に向けて競技セーリングだけでなく、日本の外洋ヨットの隆盛も始まった時代だった。

〈やまゆり〉も建造当初は海上警備

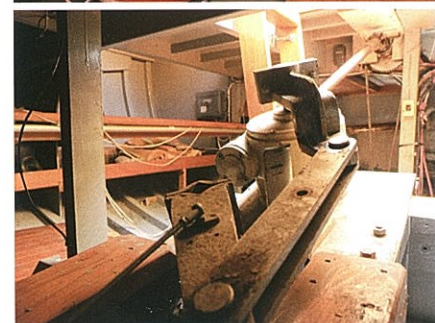
の名目から、神奈川県の中でもなんと“県警”の所轄だった。オリンピック終了後も、神奈川県警の水上警備艇のひとつとして運用されていたようだ。その後1970年に、神奈川県から江ノ島ヨットクラブ(EYC)に払い下げられ、民間の手によって活用を図ることとなった。

しかし、船齢とともに木造艇としての維持費がかかり始め、一時は廃船の声もあったという。そこで江ノ島に愛艇を置きEYCの管理担当を務めていた中村満夫氏が、有志を募って1993年に「やまゆり倶楽部」を発足させ、本格的な保存活用に乗り出した。

船は海に浮かんでいてこそ存在価値がある。陸揚げして展示してもそれは真の保存とは言えないし、海洋文化も技術の伝承もできないという中村氏の信念で、生きた船としてセーリングを



ミッドシップより前に配置された船内のサロン。沿岸警備艇として短時間の休憩のためのサロンとして設計されている



上：バウのストアスペース。フレーム(肋骨)とビーム(梁)にはケヤキ、外板にはヒノキが使われている
下：舵輪からギア駆動による長いシャフトを介してラダーストックを動かす。エンジンは120馬力4気筒のコマツマリンディーゼル、いずれも博物館級だ

SPECIFICATIONS

Yamayuri

- 全長：13.30m (43ft) ○水線長：10.75m
- 全幅：3.94m ○喫水：2.10m
- キール：4,000kg ○排水量：12.4ton
- 総トン数：19.06ton ○メイン：38.3㎡
- No.1ジブ：47.1㎡ ○ミズン：11.9㎡
- 最高速力：9ノット ○航海速力：6ノット
- 航続距離：130海里 ○乗組員数：6人
- 乗船定員数：30人(除乗組員数)
- 設計者：横山 晃 ○副設計者：武市 俊
- 造船所：岡本造船 ○製造年月：昭和37年3月

問い合わせ：NPO法人「帆船やまゆり保存会」
〒252-0804 神奈川県藤沢市湘南台2-18-1
サンウェイ湘南ビル2C号
TEL.0466-41-0307 FAX.0466-41-0308
<http://yamayuri-club.jp/>

続ける「動態保存」という方法にこだわった。伊豆稲取でカツオマグロ船主を祖先に持つ“海洋人の血筋”ならではの発想だろう。

そして2013年、建造から50年を迎え、その後も永続的な保存活動として継承してゆくため、神奈川県所轄のNPO「帆船やまゆり保存会」を組織して、EYCのみならず広く一般からの会費によって維持する体制が整えられた。〈やまゆり〉をあえて“帆船”と称しているのは、日本では一般の人たちにとってヨットは別世界との印象があり、帆船のほうが体験乗船への呼びかけにも抵抗感がないからだという。

発足1年で100人を超えた会員向けのセーリングや、相模湾を中心とするクルージングのほか、休日には江ノ島を訪れた観光客にその場で呼びかけて

1時間の体験セーリングを実施するなど、活発な取り組みが続けられている。一般の参加者の反応も上々で、体験セーリングを終えて保存会の会員になる人もあり、この取材日の時点で会員数は473人に達している。

現在の〈やまゆり〉は、コーミングスペースが船体の半分を占めるほど広くとってあり、43ftのデッキスペースにも余裕があるため、20人程度のショートセーリングでも快適だ。

そして2020年東京オリンピックのセーリング競技が再び江ノ島で開催されることが決まった。東京オリンピックが残した“宝物”として、日本が世界に誇れる歴史を持つ〈やまゆり〉が、5年後に向けてよりよい状態で保存され、一層優美な姿でセーリングを続けられるよう、多くの人たちのサポートを期待したい。